

利息が付かない時代に それでもお金を殖やす

コツ



北村 彩

(株)日本財託
資産コンサルタント

普通預金にお金を預けるリスクに
気づいていますか？

「お金は殖やしたいけど、資産運用にはリスクがあるし、利息は低くてもやっぱり銀行の普通預金が安心」と思っていますか？ ところが今、普通預金にお金を預けておくことが、逆にリスクになりつつあります。その背景にあるのが「インフレ」です。

インフレとは物価が上昇し、お金の価値が下がり続ける状態のこと。約20年続いたデフレから脱却するため、安倍政権は年2%のインフレ目標を掲げ、日本経済をインフレに転換しようとしています。

仮に物価が毎年2%上がると、1000円の商品が来年は1020円、10年後は1220円になり、今と同額を出しても同じ商品は買えなくなります。そしてこの物価上昇がそのまま続けば、100万円の預金は25年で実に約60万円の価値に、目減りしてしまうのです。リスクが

ないと信じていた預貯金も、資産を目減りさせるリスクがあるということです。

現在、日本の平均年金支給額は、一般的なサラリーマン世帯の夫婦で月約22万円、独身女性で月平均10万4000円という少なさです。今後ますます社会の高齢化は進み、年金は将来的にはさらに減ると言われています。

日本人の平均寿命は84歳、女性の2人に1人が90歳まで生きる時代です。長生きする可能性が高いのに年金は少なく、貯蓄もインフレで目減りしていく……。そんなリスクに気づいた人々が、今、「資産運用」に目を向け始めています。

誰もが資産運用をする時代に

「資産運用はリスクが怖い」という気持ちもわかります。でも、銀行に預けてもお金が目減りするリスクがある以上、今後は誰もが資産運用を真剣に考える必要があります。

と言っても、株などで大儲けしようという話ではありません。投資対象を分散してリスクも

分散させる「分散投資」、定期的に一定額の投資を続けることで相場環境の変動リスクを減らす「ドルコスト平均法」など、低いリスクでお金を殖やす方法を知ることが大切です。

ただ、投資信託や不動産投資であれば、プロに任せる運用方法なので、個人一人一人に難しい知識はいりません。わずかな資金で始められる投資もあるので、収入が少なくても充分可能です。

実際、若い女性でも資産運用を始める人が増えています。「私には無理」と思わず、まずは検討を始めてみましょう。

「貯める」「殖やす」「使う」の
バランスが大切

投資を始めると決めたら、まずは「どんな用途で、どのくらいのお金が必要なのか」をざっくり計算し、資産の全体像を把握しましょう。



そして、今あるお金、これから入ってくるお金を「貯める」「殖やす」「使う」とバランスよく配分することが大事です。

バランスを考える基準は、「いつ必要なお金なのか」。これに沿って、次のようにお金を振り分けます。

●短期的に必要なお金

↓食費、光熱費、住居費など

日々出入りするお金は「普通預金（貯金）」などで管理し、すぐに使える状態（流動性）にしておきます。

●中期的に必要なお金

↓教育費、車の買い替え資金、旅行資金、住宅リフォーム代など

5年後・10年後などの少し先に必要で、使い道が決まっているお金は、「積立定期預金」「個人向け国債」などを活用し、少ないリスクで着実に貯めていきます。

●長期的に必要なお金

↓老後資金、万が一の備えなど

一の保証を得ながら資産形成できる点で人気を集めています。

また、不動産投資もおすすめです。若いうちに始めれば、定年までに複数の不動産を所有することも可能で、そうなればより多くの家賃収入を得られます。月々の住宅ローンは家賃収入で相殺されるので、少ない自己負担で老後の継続的な収入源を確保できます。

40代でお子さんが大きい場合や独身の方は、手厚い死亡保障を付ける必要がないので、保険性よりも効率的に資産を殖やすことを重視しま

将来に備えるお金は、多少リスクを取って長期計画で殖やします。「投資信託」「不動産投資」などが方法です。

年代別・投資アドバイス

年代別の投資法も考えてみましょう。例えば、小さいお子さんがいる30代なら、学資保険だけでなく、変額保険などで老後の自分たちの生活費も同時に用意したいものです。

変額保険とは、積極的な資産運用を行わないが、死亡保障を準備できる商品です。保険料の一部が株や債券などで運用され、実績によって保険金や解約返戻金・満期金が増減します。運用はプロが行いますが、自身は自分で決められるので、「安全性が高い国債の割合を増やし、手堅く運用する」「リスクが高くても、海外株式を厚くして収益を増やす」などと調整可能です。

唯一インフレに対応できる保険であり、万が

しょう。前述の不動産投資のほか、変額保険の外貨割合を増やしたり、外貨建て保険を始めるのも手です。

インフレで円の価値が下がり、円安が進むと見られる今後、外貨を持つのは得策です。リスクヘッジの意味でも外貨建てで資産を持つのは有効です。

50代以降は、老後の資金を貯めるラストスパート。今ある貯蓄や退職金を減らさないように、個人向け国債や複数分散型の投資信託など、リスクの低い投資を行なうのが基本です。株を買うにしても、大きな売却益は狙わず、コツコツと配当金を得られる銘柄に注目しましょう。老後に毎月収入を得られる不動産投資もおすすめですが、定年後はローン審査が通りづらくなるので、始めるなら早めに行動を。

自分の将来のお金を考えてみたいなら、信頼できるファイナンシャル・プランナーを見つけて相談したり、マネーセミナーなどに参加したりするとよいでしょう。